

ビデオ 通信

2026 年
9 月 10 日 (木)

No.4989

70th
since 1956

月・木曜日発行
月額：¥11,000 (税込：¥11,880)
発行：飯澤 剛
編集：齋藤 浩一

ユニ通信社

〒238-0048
神奈川県横須賀市安針台 17-3-101
TEL：046-827-7421
FAX：046-8277422
E-mail：VT@uni-press.net

TREE Digital Studio

Media Garden 照明機材センターに VP 検証環境

10m × 3.5m の LED ウォールや撮影機材からソフトまで全て自社スタッフで構築
部署を横断した若手メンバーが連携しながら取り組んだ“同社ならではの”新しい挑戦



TREE Digital Studio が構築した VP 検証環境

(株) TREE Digital Studio はこのほど、バーチャルプロダクション (VP) や新しい撮影ワークフローの検証に向けた社内プロジェクトを進める中で、神奈川県川崎市にある Media Garden 照明機材センターに、幅 10m × 高さ 3.5m で円弧形状の LED ウォールと、同社が所有する撮影機材、カメラトラッキングシステムなどを組み合わせた VP 検証環境を構築した。各事業部の

若手メンバーを中心としたプロジェクトチームが協力し、LED ウォールの組み立てからセッティング、アプリケーションソフトの調整など、全てを自社スタッフで実施したのが大きな特徴。部署の垣根を超えて若手メンバーが連携しながら取り組んだ“TREE Digital Studio ならではの”新たなチャレンジとなっている。この環境は VP 撮影だけでなく、新しい撮影手法や機材、ワークフローなどの検証、社内での知見共有にも活用していくという。

自社のリソースを生かした「実寸大のテストスペース」

今回のプロジェクトは、ソニー PCL (株) と協業した「イエロースタジオ」における VP スタジオ構築で得た知見を、さらに発展させる取り組みとしてスタートしたもの。今回は外部企業との協業ではなく、TREE Digital Studio の社員だけで環境・空間を作り上げることが大きな目標だった。

取締役の島崎裕嗣氏は〈LED ウォールを建てるところから、様々なシステム構築、データについても全て自分たちで手がけるのが 1 つの目標でした。空間、機材、技術、人材という“映像制作に関わるオールインワン”を持つ当社ならではの R&D になっています〉と説明する。

また、若手社員が興味を持った技術に挑戦できる場を提供したいという思いもあったという。

〈日々のクライアントワークがある中で、何か新しいことをしたいと思って、なかなかできません。そういうチャンスがあることで、若い人たちならではの新しいことが生まれる可能性があります

ます」と島崎氏。

また、Media Garden 執行役員の齊 伸介氏は「若手社員が「本来やりたいこと」や「チャレンジ」「興味」を具現化できる場所を作ることが出発点でした。当社は CG などのデジタル系だけでなく、スタジオや撮影・照明機材などの物理的なリソースも持っています。そうした人や技術、機材が集まる物理的な空間を提供できることが強みであり、そうしたものを全て活かして具現化できるものが、今回は VP でした」と説明する。

検証環境には、約 60 坪のスペースに幅 10m × 高さ 3.5m、横方向に R を付けた LED ウォールを設置。BOE の LED パネル「BTJ-XM019A」（1.9mm ピッチ）をはじめ、Unreal Engine、stYpe の「RedSpy」、Brompton Technology の「Tessera SX40」などを組み合わせたシステムとなっている。テスト用カメラにはソニー「PWX-FS7M2」を常設しており、本番時には用途に応じて同社が保有する様々な撮影機材に載せ替えることができる。

若手が「自分たちでできるようになる」

検証環境の大きな特徴は、専門業者に構築を任せるのではなく、LED ウォールの設営から信号調整、PC のセッティング、アプリケーションソフトの検証まで、若手スタッフが自ら取り組んでいること。

CRANK 事業部 執行役員 Technical Coordinator の堀江浩太郎氏は「専門業者さんに頼めば、もっと早く簡単にできてしまいますが、今回は真剣に「自分ができるようになりたい」という思いがありました」と話す。



若手中心のプロジェクトメンバー

実際の構築には約 1 週間をかけ、その後も信号の細かな調整や PC のセッティングなどを進めてきた。スタッフは専門家から教わるのではなく、インターネットでマニュアルを調べたり、AI に聞いたりしながら手探りで検証を続けているという。「自分たちでやってみるからこそ、深く理解できるのではないかと思います。ここで全てのオペレーションなどがわかったところから、実際の動画制作に移っていきます」と齊氏。島崎氏も「本当にゼロからやっているような感じです。実際に自分でやってみると、できないことが沢山出てくるので、それを 1 つ 1 つ解決している段階です」と説明する。

この検証環境にある機材をバラして他所に持って行き、テンポラリーに作るなど、この環境で得たノウハウを、将来的には Media Garden や外部スタジオなどでの展開にも生かせるようにしていきたいという。

こうした取り組みを支えているのが、部署を横断したメンバーの連携。普段は異なる部署で異なる業務を担当するスタッフが、技術的な興味をきっかけに集まり、それぞれの知識や経験を持ち寄っている。「部署が違って普段あまり関わりがない人たちでも、好きなことが同じ仲間ということもあり、今までにない交流が生まれています」と島崎氏。

VP に限定せず「何でも試せる場所」に

今回の検証環境は、VP 専用スタジオとして運用することが目的ではないという。

齊氏は「極端に言えば、LED パネルを使わなくてもいい。この空間で何かの撮影テストをするなど、私たちの仕事に絡むことなら何をやってもいいんです」とし、島崎氏も「この場所を「VP」で縛りた

くない。撮影と AI、照明、センシング技術、LED など、様々な技術を組み合わせ、新しい撮影手法やコンテンツを試す場として活用していきたい」と話す。

また、同社では VP における CG 制作のコストやスケジュールが課題となる中で、ガウシアンプラットフォームなどを活用し、「ゼロから CG を作らないで VP ができる」という新たな制作手法についても検証を進めている。メーカーのデモを見てシステムや設備を導入するのではなく、自分たちで実際に触り、映像を制作することで、自社の制作環境に適した技術やソフトウェアを見極めていく。

島崎氏は〈この場所から「TREE Digital Studio なら、こういうことができます」というものが生まれたらすごく嬉しい。お客さまが「何かを検証したい」と思った時に、「ここで一緒にやりましょう」と言える場になればと考えています〉。堀江氏も〈今回、ハードウェア面が強化されたことで、お客さまに対して提案できることが増えることを期待しています。実際にやってみることで知見も蓄積できるので、「これはインカメラ VFX でやった方がいい」「スクリーンプロセスがいい」「実際にロケ撮影するべき」といった説得力のある提案ができるのではないかと考えています〉と話す。

齊氏は〈この場所は「成長するための場」と位置付けています。VP スタジオでもテストスペースでもない、本当に自由な空間。用途を限定したくないので名前も付けていません。それが TREE Digital Studio のカラーであり、強みだと思っています〉としている。

若手が挑戦できる環境を会社として支える

今回のプロジェクトでは、メンバーが集まる機会や、この環境を利用する機会を増やすことも重要視している。

齊氏は〈私たちマネジメントをする側は、「参加させたい」という強い思いがあります。「今日は〇〇のテストがあるから行きたい」と言われた時、「行っていよいよ」と言える環境を作っていきたい〉とする。

堀江氏は〈TREE Digital Studio になって 5 年となり、様々なことができる人材が増えてきました。誰かが「行きたい」と言った時に、その人の分の仕事を周りの人たちでフォローできる体制が整ってきています。それも、みんなが 1 人 1 人しっかり仕事をしてくれているからこそであり、これも「TREE Digital Studio ならではの」の 1 つと考えています〉と語る。

「TREE Digital Studio とならできそう」と思ってもらえる会社に

同社では、1 つの目標として、実制作に活用ができるレベルまで検証を進めていく計画だ。

島崎氏は〈目的は VP 事業そのものに限定されません。「撮影と何か」を組み合わせたり、照明をコントロールするシステムと LED を連携させたり、センシング技術を使ったインタラクティブコンテンツを試したりと、様々な可能性を模索していきたい。お客さまから「自分たちでできないことも、TREE Digital Studio とならできそう」という期待値が高い会社を目指しています。「あの場所でなにか一緒にできないか」と思っていただけの場にしていきたい〉と話している。

◇ TREE Digital Studio <https://www.tdsi.co.jp/>



(左から) 齊 伸介氏、島崎裕嗣氏、堀江浩太郎氏